

平成15年繭生産統計

【調査結果の概要】

1 掃立卵量

調査県の掃立卵量は2万3,400箱で、前年に比べ10%減少した。

これを蚕期別にみると、春蚕が8,700箱で前年に比べて5%、初秋蚕が6,300箱で13%、晩秋蚕が8,300箱で14%、それぞれ減少している。

初秋蚕、晩秋蚕が前年に比べ大幅に減少したのは、6月下旬以降の低温・日照不足等により桑の生育が悪く、葉質の低下や桑不足等がおきたためである。

2 収繭量

調査県の収繭量は765.0tで、前年に比べて12%減少した。

これを蚕期別にみると、春蚕が306.4tで前年に比べ5%、初秋蚕が209.5tで9%、晩秋蚕が249.2tで21%、それぞれ減少した。

晩秋蚕が前年に比べ大幅に減少したのは、低温・日照不足等による葉質の低下、桑不足等により掃立卵量が大幅に減少したことや、膿病、軟化病等の病害の発生によるものである。

なお、蚕期別の構成割合は、春蚕が40%、次いで晩秋蚕が33%、初秋蚕が27%となっている。

また、調査県別に見ると、群馬県が349.8t、次いで福島県が79.1tの順となっている。

図 蚕期別・県別収繭量(調査県)

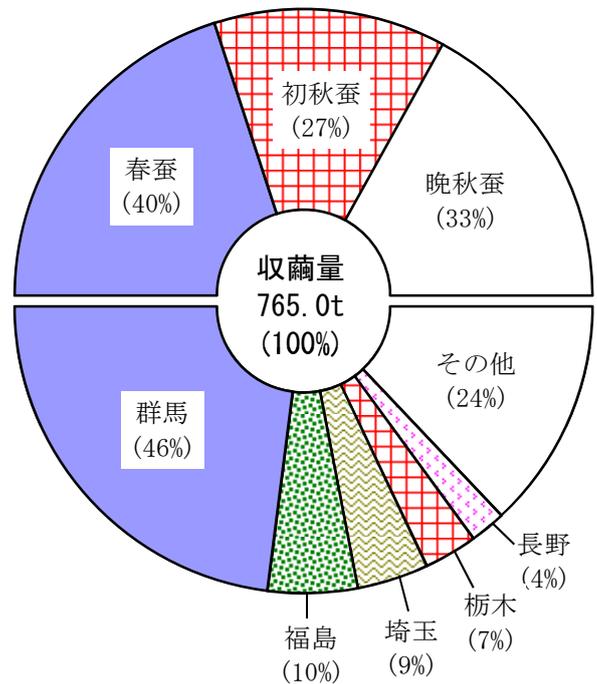


表 掃立卵量及び収繭量(調査県)

単位 { 掃立卵量 : 100箱
収繭量 : t
対前年比 : %

蚕期	掃立卵量	収繭量	1箱当たり 収繭量	対前年比		
				掃立卵量	収繭量	1箱当たり 収繭量
年間計	234	765.0	32.7 ^{kg}	90	88	98
春蚕	87	306.4	35.2	95	95	100
初秋蚕	63	209.5	33.0	87	91	105
晩秋蚕	83	249.2	30.0	86	79	93